



らいぶらいい



1883年2月16日 日本初の天気図

今から141年前、日本で初めて天気図が作成されました。ドイツ人のクニッピングが作成したものを翻訳し、東京で発表、3月からは毎日、作成配布されるようになりました。観測は明治から始まっていますが、気象庁ができたのが1956(昭和31)年、その後南極に観測台を設置、気象観測衛星の打ち上げなど、技術の進歩とともに天気予報の精度が上がってきました。

天気図はもちろん、天気、地震、防災などの情報は気象庁のHPから見るができます。[気象庁 Japan Meteorological Agency \(jma.go.jp\)](http://jma.go.jp)



日本人は農耕民族なので、古くから天気や季節を大切にしてきました。二十四節気は春分と秋分を起点に24等分し、それぞれ自然の変化がわかるような呼び名を付け、農業の種まきや収穫の目安としてきました。2月は4日立春、19日雨水（雪ではなく雨が降るようになる）があります。春に近づいているのが伝わってきます。

また、日本語には天気に関する言葉がたくさんあります。時雨、細雪、木枯らし、五月雲、曙・・・どれほど日本人が天気や季節と密接に生きてきたかがわかります。ぜひ、読み方や意味を調べてみてください。

天気のことなら・・・

「科学の基礎のキソ 気象」田代大輔監修/丸善出版

「てんきごじてん」鈴木心写真/ピエ・ブックス

「すごすぎる天気の本」荒木健太郎著/KADOKAWA

「気候危機がサクッとわかる本」ウェザーマップ著/東京書籍

「天気と気象」佐藤公俊著/学研

「空の名前」高橋健司写真/角川書店

「気象のきほん」Newton ライト



倉吉北高図書館

2024.02.08

詩人紹介



高村光太郎

1883(明治16)年 東京に生まれる。父は彫刻家高村光雲。

東京美術学校に入学し、彫刻や洋画を学ぶ。一方で文学にも興味があり、詩や翻訳、評論などを文藝雑誌で発表していた。

1914(大正3)年、第一詩集「道程」刊行。そのころ、長沼智恵子に出会い、激しい恋愛の末、結婚。しかし、繊細な気質と体質を持つ智恵子は次第に精神を病む。献身的な看病もむなしく智恵子は1938(昭和13)年に逝去。彼女の死から3年後、妻への愛と死の世界をうたった「智恵子抄」を刊行。

天涯孤独となった光太郎は、詩人、彫刻、随筆、評論と才能を発揮。

1956(昭和31)年、73歳で死去。

「日本語を味わう名詩入門 高村光太郎」

荻原昌好編 あすなろ書房 より

図書館にある本

「日本語を味わう名詩入門 高村光太郎」

「智恵子抄」「高村光太郎詩集」

「人と作品 高村光太郎」「日本文学全集」

新着図書案内

分類	本の題名	著者など
料理	厨房の哲学者	脇屋友詞
マンガ	ブッタとシッタカブッタ いのちのオマケ上下	小泉吉宏
言語	基礎からレッスン はじめてのロシア語	柚木かおり
和歌	世界一楽しい！万葉集キャラ図鑑	岡本梨奈
小説	きこえる	道尾秀介
	東京都同情塔	芥川賞受賞作品 九段理江
	アルジャーノンに花束を 新装	ダニエル・キイス
	可燃物	米澤穂信
	ともぐい	河崎秋子
	八月の御所グラウンド	直木賞受賞作品 万城目学
エッセイ	もりあがれ！タイダーン ヨシタケシンスケ対談集	ヨシタケシンスケ
	本屋図鑑 だから書店員はやめられない	いまがわゆい
絵本	ぼくがラーメンたべてるとき	長谷川義史

2024 本屋大賞ノミネート作品

- 『黄色い家』川上未映子 中央公論新社
 『君が手にするはずだった黄金について』
 小川哲 新潮社
 『水車小屋のネネ』津村記久子 毎日新聞出版
 『スピノザの診察室』夏川草介 水鈴社
 『存在のすべてを』塩田武士 朝日新聞出版
 『成瀬は天下を取りにいく』宮島未奈 新潮社
 『放課後ミステリクラブ』知念実希人 ライツ社
 『星を編む』凧良ゆう 講談社
 『リカバリー・カバヒコ』青山美智子 光文社
 『レーエンデ国物語』多崎礼 講談社

大賞は4月10日発表！

ジャンル別で本を紹介！

産業 (6)

「探究ワールド食料とおいしさの未来」農研機構監修 (611)

ドラえもんと一緒にタネや遺伝子など食べものの元まで探って、もっとおいしく、安全でスマートな農業を紹介しています。食は生きる基本。

「鉄道ひとり旅のススメ」「旅と鉄道」編集部編 (686)

列車にゆられてひとり旅。ふらりと途中下車もよし、ぼーっと海を眺めるもよし。行先も予定も一人で決められるのがひとり旅のだいご味。

「ちいさな花言葉・花図鑑」宇田川佳子監修 (627)

花にはそれぞれ花言葉があるのは知っていますか？例えばスイートピーは「門出」、チューリップは「思いやり」。言葉にできないメッセージに。

芸術 (7)

「へんな西洋絵画」山田五郎 (723)

西洋絵画って、ちょっとなーと思うあなた。この本は思わず吹き出すような面白くてへんな絵を集めています。西洋絵画の見る目が変わるかも。

「楽器から見る吹奏楽の世界」佐伯茂樹 (764)

吹奏楽の標準は打楽器、木管楽器、金管楽器で編成される。楽器の名前を覚えたら、吹奏楽の楽しみ方がマシマシになること間違いなし。

「マンガで学ぶ スポーツ倫理」林芳紀ほか (780)

スポーツにおいてルールは必須。そのルールって何のためにあるの？勝つことが全てなのかな？スポーツで大切にすることってなに？